

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第2回相模原市支援教育ネットワーク協議会		
事務局 (担当課)		学校教育課 電話042-769-8284 (直通)		
開催日時		令和5年2月8日(水) 9:00~11:00		
開催場所		教育委員会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	3人(別紙のとおり)		
	事務局	4人 (三谷担当課長、仲村指導主事、小野指導主事、桑島学校看護師)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 提案事項 (1) 第2次相模原市教育振興計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度中期進行管理シート報告</li> <li>・令和5年度の方向性(案)</li> </ul> (2) 支援教育コーディネーターへの支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者のための「進路指導ガイド」データ配信について</li> </ul> (3) 特別支援学級担任への支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動とキャリア教育の必要性について</li> </ul> 2 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育における国の動向と本市の支援教育の方向性について</li> <li>・支援の必要な児童生徒のための令和5年度支援体制について</li> </ul> 3 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市特別支援教育センター視察報告</li> <li>・令和4年度情報共有シート</li> </ul>		

## 議 事 の 要 旨

〔議事内容、質問及び主な意見〕 ●委員 ○事務局 △オブザーバー

### 1 提案事項

(1) 第2次相模原市教育振興計画について

○事務局より説明

<各委員よりご意見>

●【目標③施策⑩項目⑥】「学校サポーター制度の導入」について（中里委員）

- ・学校サポーターは、色々な子がいる中で、落ち着きがなく教室を出てしまう目立つ子どもに対応するだけでなく、誰にも迷惑かけず、ただ座ってるような子に対しても、実際に隣につき、細かいことに気付きながら対応している。
- ・低学年 35 人を担任1人で見とるのはなかなか難しい。子どもたちの状況を非常によくキャッチし、的確に声をかける。また、心理的にうまく表現することができない子どものつぶやきを繋げることで、子どもたちの成長に役立っている。
- ・担任には気づきにくい視点から意見を伝えている。
- ・学校全体の中で色々なところに光をあてる役目になっている。
- ・給食を提供したり、交通費を支給したり、教育委員会の支援があると制度は充実して子どもたちのためになる。

○事務局より補足説明

- ・令和4年度3校7人、令和5年度5校13人、拡大している。学校のニーズとも合致している。

●【目標③施策⑩項目①】「人的支援の充実」（支援教育支援員の配置）

【目標③施策⑩項目①】「人的支援の充実」（非常勤介助員の配置）について（谷口委員）

- ・支援教育支援員は、教室の中でT2の形で子どもたちへ支援したり、保護者の要望があれば個別指導で対応している。
- ・週に大体2～3日の勤務で年間106日勤務している。
- ・できれば毎日いてもらえる状況になれば学校は助かる。本校各学年3クラス、全体で12クラスと支援学級がある。週2～3日で全体をみるというのは厳しく、範囲が限られてしまう。
- ・本校の支援教育支援員は元中学校教員ということもあり、普段から子どもに寄り添い声かけをしている。
- ・非常勤介助員の勤務時間のバリエーションがあれば、色々な方が勤めることができるのではないかと。

●質問（富川委員）

- ・学校に登校できるけど、教室に入れられない子どものための教室は市として整備しているのか、それとも学校の努力で作っているのか。

△青少年相談センター 加藤所長より説明

- ・校内設置のモデル校として3校ある。それ以外の学校は学校の努力によって運営している。

●ご意見（富川委員）

- ・学校に任せるのではなく、モデル校をもっと拡大してほしい。

○事務局より谷口委員への補足

- ・支援教育支援員は次年度も 115 人の定数維持、非常勤介助員は微増という形で予算を取ることができた。
- ・支援教育支援員は、規模が大きい学校には 2 名の複数配置をしている。複数配置校では、不登校の子どもがいる不登校ルームに必ず支援教育支援員が対応できている学校もある。複数配置校の効果検証をしていきたい。

●【目標①施策①項目①】「全ての教育活動を通じたキャリア教育の推進」について（大里委員）

- ・子どもたちが将来のことを考えてキャリア教育を意識しながら取り組むのはすごいこと。作の口小学校はキャリア教育で身につける力を視覚化し、その都度評価していた。
- ・別の学校では、生活単元学習を教科と合わせ、買い物学習を実施していた。昔は、その場が楽しければいいとされていたが、将来を見据えたところが小学校の指導に入ってきている。ただ、中学校においても小学校と同じ指導がされているため、生徒の力を十分に発揮させる視点が必要である。
- ・特別支援教育の中で自立活動は大事である。個別の指導計画も大事である。
- ・自立活動から合理的配慮を行い、将来のキャリアを見据えて個別指導計画を立てていく必要があるが、まだまだ広がっていない。
- ・「スマイル 365」を活用し、教育課程を意識しながら特別支援学級の担任をしていくことが大切である。

●【目標③施策⑩項目⑤】「医療的ケア児に対する支援の充実」について（富川委員）

- ・令和 4 年度は 9 校 11 名が通学している。
- ・今年度から教育委員会に学校看護師が配置された。現場の学校看護師からの相談を受けている。
- ・コロナ禍で看護師の働き方が変わってきた。医療機関においても看護師を募集しても集まらず、派遣に頼っている。
- ・相模原市の学校看護師の給与をみると相当低い。
- ・看護師不足はどこ自治体も頭を抱えている。
- ・派遣の看護師をうまく活用していく。
- ・相模原市には小児の医療的ケアを専門としている訪問看護ステーションがあり、活用している。
- ・来年度も 9 校 11 名で変わりはないが、中学校が 1 人入ってくる。
- ・宿泊学習は実施できた。今後の課題は修学旅行における看護師の引率である。

○事務局より富川委員への補足

- ・相模原市の看護師の時給は現在 1500 円。2 月 22 日に富川委員が委員長を務めている「医療的ケア運営委員会」において、学校看護師の確保というところを議題にしている。看護師不足や安全な医療的ケアについては、引き続き、検討していく。

●【目標①施策①項目①】「全ての教育活動を通じたキャリア教育の推進」

【目標③施策⑨項目④】「県立特別支援学校との連携」について（片平委員）

- ・相模原市は積極的に支援教育に取り組んでいる
- ・成果のところ研修や情報発信を行うことができているが、担当者が学校の中で取り入れ、どう広げていくかが大事。報告会やOJTで活用し、子どもたちの理解へつなげてほしい。
- ・センター的機能を活用して相談を受けている内容は、「座れない」「授業が受けられない」という内容が小中学校ともに多い。キャリア教育とどうつなげていくか、コーディネーターを活用し進路担当と連携の仕方を広げていくことも可能である。

●各委員の発言等を含めて総論（安藤委員長）

- ・ここに挙げられている項目は着実に進捗している。
- ・相模原市の素晴らしいところは、人的配置である。通常級の発達障害の子どもを見据えて児童・生徒指導専任をきちんと位置付けたこと。また、支援教育支援員も115人配置、1校に2名配置しているところは県内でもほぼない。
- ・非常勤介助員の人数に関しても、教育委員会の努力した結果である。小さい市町村だったら無理なところをきちんと配置している。
- ・今後のビジョンとして大切なことは、限られた人的配置の中で、指導の形態の工夫を行うことが重要である。

○事務局

- ・指導の形態や工夫をしっかりと確立し、限りある資源や人を有効的に活用していくことが大事であることを価値づけていただき感謝している。

●安藤委員長の意見を伺い、現場の意見（中里委員）

- ・教育委員会は、人の配置を充実させている。どう活用するかは管理職の課題である。限られた人的配置の中で、指導の形態の工夫が必要である。
- ・支援級担任の支援に対する理解と手立てを、具体的に知ることが大事。色々な課と連携し、対応していく必要がある。
- ・支援学級と通常学級の間にある通級指導教室を校内で作りたいが、現状は厳しい。通級指導教室を増設し、学校から近い通級指導教室へ通うことができれば、子どもへのサポートの機会が増え、保護者の負担も軽減する。

<これまでの委員の意見を聞いて、オブザーバーより>

△青少年相談センター 加藤所長

- ・通級指導教室は令和5年度に各区小中2校ずつ設置が完了する。効果・検証はこれから実施していく。
- ・通級指導教室の巡回指導も選択肢の1つとして視野に入れていきたい。

△教育センター 宮原所長

- ・教育センターでは、キャリアの視点を必ず盛り込んで、学校や先生方へ指導・支援している。
- ・授業づくりでは「スタートとゴール」を合言葉にして、児童生徒の状況把握、見通しを持った授業展開をしている。また、子どもたちの価値づけ、先生方に次の課題を明確に示すことを繰り返し、子どもたちの自己肯定感を高めるような授業づくりを進めている。
- ・GIGAスクール構想が令和2年からスタートして、各学校で充実してきている。個別

最適な学びの基本的な考えとして、ICT は1つのツールとし、子どもたちの特性に応じて、最適な学びを子どもたち自身が選択できるようにしている。

- ・協働的な学びというところで、自分が考えたことを子どもたち同士で、共有していく。そして自分の考えと人の考えを、比較したり、自分の考えを持って深めたりすることを大事にしている。
- ・キャリアの視点を授業の中に盛り込みながら、次への意欲、自立に向けた意欲として深めていく授業の支援を行っている。
- ・センターの研修の体系を見直して、個別のオーダーに答えられるように充実を図っていく。

#### △学校教育課 松本課長

- ・平成 30 年、当時の学校教育部長から「キャリア教育と支援教育は両輪で考える」という言葉があった。キャリア教育とは、極論で言うと「子どもの自立に必要な力を身につけさせる」という考え方であり、支援教育そのものである。
- ・子どもの自立にとって必要な力、子どもの状態像を考えながら支援にあたることが大事である。
- ・学校教育課人権児童生徒指導班より、学校内での問題行動の報告数は年々増えている。発達に課題を持った子どもに関する報告の件数は増えている。ただ、子どもの発達の特性についてよく理解をしていれば、防げたと思われる件数が少くない。教職員の方で、研修等を踏まえながら理解を深めていく。
- ・キャリアパスポートに関しても、子どもの育ちを認めながら肯定的に子どもと関わり、自己肯定感を育むことが大事である。

#### (2) 支援教育コーディネーターへの支援について

##### ○事務局より第2回支援教育コーディネーター研修の内容を中心に説明

##### ●千谷委員

- ・支援教育コーディネーター研修の感想より、「参考」というワードが 13 人、「共有」というワードが 89 人おり、「共有していこう」と捉えている方が多いと感じた。
- ・「具体的に」というワードは 21 人おり、自分はこの目の前のこの子に対して具体的に何したらいいのか先生方は困っているのではないかと感じている。
- ・個に対する具体的な支援を、無意識でやれているので支援を支援と思ってないところがある。
- ・「無意識な支援」を連携シートに書くことで「意図的に支援をしていること」が明らかになる。
- ・支援教育コーディネーター研修では、情報交換するだけでなく、連携シートの書き方や自分の無意識の支援を言葉にする内容も盛り込まれるといい。

##### ●千谷委員の意見を踏まえて小学校のご意見（中里委員）

- ・連携シートを書く保護者は年々増えている。学校としても、小学校の支援を中学校でも続けてもらいたい。生活支援プラン Map（まっぷ）についても、年々増加し、今年度も 10 人以上の提出があった。
- ・新入生説明会時に、個別相談を希望する保護者は多かった。
- ・生活支援プラン Map（まっぷ）に関しては、学校のホームページからダウンロードできるようにしていく。
- ・幼稚園、保育園の温度差があり、保護者は困っている。支援教育コーディネーター

研修等で確認していきたい。

- ・通常学級の先生も、無意識でやっている支援を価値付けし、自信を持たせたい。
- 千谷委員の意見を踏まえて中学校のご意見（谷口委員）
  - ・中学校が小中連携シートを受け取る数は増えてきている。
  - ・生徒指導事例で、小中連携シートが提出されていることが多い。中学校現場でも助かっている。
  - ・これからも増えてくると思うので、大事にしていきたい。

#### ○まとめ（事務局）

- ・支援教育コーディネーター研修で、生活支援プラン Map（まっぷ）の有効的な書き方、無意識の支援を価値付けることをとり入れ、各校におろしていくことも1つの手立てとして次年度の研修計画を立てていきたい。

#### ●富川委員

- ・相模原市の保育園に関しては、健診マニュアルに沿って検診を実施している。
- ・3歳以上は年に2回の検診、1歳未満は2カ月に1回、2～3歳は年に4回検診している。
- ・園でできる取組を話したうえで、保育士から保護者へ話をもっていく。保護者が「心配です」と言った場合は、陽光園等へ発達相談を受けるように促すことができる。
- ・保育園に通っている場合は、発達に関して相談できるが、幼稚園は年1回の定期検診のみである。

#### ●大里委員

- ・小中連携シートは、10年ぐらい前に青少年相談センターの学校カウンセラーが発達障害のある子どもが中学へ行くときに、情報をきちんと渡したいということで作ったもの。
- ・当初は学級担任が作成していた。
- ・今は全員へ配布していることはすごいこと。
- ・保護者から声があがれば当たり前になる。
- ・よい事例を紹介し、共有していくことが大事である。

#### ●安藤委員長

- ・やっていることを価値づけるのが重要である。

#### （3）特別支援学級担任への支援について

##### ○事務局より説明。

- ・安藤委員長より「キャリア教育と将来のビジョン、生き方働き方を連動させた教育活動の充実が必要である」という課題をいただいている。これからのキャリア教育に期待することや、ご提言等をいただきたい。

#### ●安藤委員長

- ・相模原市の「キャリア教育と支援教育を両輪にしていく」という発想は素晴らしい方針でスタートされている。
- ・ただ、キャリア教育の論理的な定義づけに偏っている。
- ・人間関係形成能力とか、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力といったよう

な能力に着目しながら、基礎的なものを培うことはよくわかる。キャリア教育の定義は、一人一人の社会的、職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す教育である。

- ・なりたい仕事に就くために準備していく。それに向けて自分の必要なモチベーションを高め、学びを促していくことが大切である。
- ・職業体験が、なおざりになっているように感じる。ただ体験すればいい、頼めるところが少ないから、そろそろやめようか、短くしようかではない。体験してその場所に行かせることが本質ではなく、どういう能力を身につけるために、どういう学校に行けばいいかということ、徹底的に調べさせて発表させる。
- ・中学校よりも、小学校で体験的なことをさせることが大事。
- ・今の子どもたちがなりたいとされている YouTuber になるためには相当大変であることを理解し、そのためにタブレットを使いこなす等、教育の本質的なモチベーションを高めるような、個々に応じたことをねらいとする。
- ・通常学級でも職業に着目して欲しい。
- ・知的障害の子どもたちには掃除検定を受けることがあり、それをきっかけにビルメンテナンスという仕事をしている人もいる。掃除の技能基礎オリンピックもあり、掃除で自分の生活賃金を得ることもある。夢みたいな話だけど、自閉症の子どもが窓ガラスが曇るのが許せず、コンビニの窓を徹底的に磨いた例もある。コンビニで「起業して社長になれば」と言われ、本当に起業して社長になり、徹底的にどこまでも窓を磨く仕事に就いた。
- ・早いうちにきっかけを持てば、進路選択を、共有して考えられる。
- ・職業的自立に視点を移して欲しい。
- ・相模原市内には工場が多く、発達障害の方が多く働いており、支援学校がデータをたくさん持っている。
- ・通常学級、中学校の支援学級には職業的自立の視点を持って取り組んで欲しい。

#### ●片平委員

- ・清掃技能検定に向けて、校内での作業学習等は本人の特性を見極めながら指導している。
- ・実際に特例子会社等で就労する場合も、清掃関係は多く、真面目で勤勉でやり方を自分で変えてしまわずに基本通りにやることができる、学習と職業が結び付いている大変分かりやすい良い事例である。
- ・保護者が最近進路を決定するのは、喫茶やパン作り等の仕事である。
- ・進路の話をするときは、連携シート等を使って積み上げていくことが大事。
- ・職業の時間では、挨拶や身だしなみ、報告できるかを学習することが大事。職業のスキルそのものは実際に社会へ出た時に覚えることができる。
- ・子どもたちの適性に応じた社会的職業的自立を大切にしている。

< 2人の委員の意見を聞いて、オブザーバーより >

△教育センター 宮原所長

- ・概念に偏らないというところはとても大事。
- ・なりたい自分、ありたい自分は、職業だったり、こういう人になりたかったり等、何か教育活動のその先を見通したつながりを、子どもたち自身が意識できるようにしていくべきである。そうした視点から、日々の授業改善をしていく必要がある。
- ・子どもたちが次の意欲へつなげていくために、先生が1つ1つの授業に落とし込んでいくのが大事。

- ・指導主事による研修は、集合研修だけでなく学校のオーダーにできるだけこたえられるように個別にも対応している。
- ・子どもたちが価値づけできることを1日1つ投げかける授業づくりを理想としながら、支援にあたっていくという熱い思いで、指導主事一同取り組んでいる。

#### △学校教育課 松本課長

- ・小中学校の早い段階で、どんな可能性があるかという気づきを得ることが大事。
- ・キャリア教育は、子どもの実態を踏まえて、どんな力が必要かを考えながら、逆向きに設計して教育活動を重ねていくことが必要。
- ・教育活動の中においても、成功体験を積んでいくことが大事。
- ・できないことの連続よりも、自分ができたことを積み重ねる中で、子どもたちの気づきを得る。先生も子どもにこんな力がある、こんな伸びしろがある等の気づきから子どもの可能性に目を向ける。
- ・関係機関との連携、様々な資源をつなげていくことが大事。

## 2 協議事項

### ○事務局より説明

- ・支援教育における国の動向と本市の支援教育の方向性について
- ・支援の必要な児童生徒のための令和5年度支援体制について

### <各委員より一言>

#### ●谷口委員

- ・通常の学級に在籍する児童生徒の支援に力を入れていただき、感謝している。
- ・中学校現場の大きな問題として、特別支援学校高等部への進学がある。希望していても、なかなか叶わないという状況が、昨年度、今年度と続き、改善される見通しが立っていない。我々も声をあげていかないといけないが、委員の皆さんのご支援をいただきたい。
- ・キャリア教育については、先の見通しを持っていない子どもが大変多いと感じている。この3年間の教育活動の影響もあるかと思うが、今後力を入れていきたい。

#### ●中里委員

- ・温かさのある教育を推進する環境で子どもたちが学ぶためには、教職員が余裕を持って温かさのある学級、あるいは学校を作れるように、校長である私たちが努力していくことを再確認した。
- ・同じ学校の中にある、通常級と特別支援学級の垣根がない、みんな同じ学校の子どもという意識を大切にしている。
- ・来年度の支援学級担任を決める中で、なるべく新しい人が支援学級の担任をし、支援学級をやっていた人が通常級を持つことで、お互いを知り合えるようにしたい。
- ・「みんな同じ小学校の子どもだよ」と見える学校を作っていきたいという思いを、この会議で新たに確認することができた。

#### ●富川委員

- ・医療的ケアですが、相模原市として福祉を含めた全体としての会議が今年度からスタートした。しかし、課題も改善点もまだ多い。今後も、医療的ケアを続けられるような社会を作っていく。

●大里委員

- ・子ども同士の支援はすごい。必要な時に支援し、必要ない時は厳しく言う。そのような力、そのような状況を作り出す学級担任を増やすことで支援教育が進む。
- ・支援学級や通級指導教室の先生の力量を上げることも大事だが、通常学級の先生が支援の力量を上げることが、実は支援教育にとって一番大事。

●千谷委員

- ・できないことがあっていい、苦手ですと言ってもらえれば、いくらでも協力できる。しかし、失敗を隠したり、「苦手」と言えなくて「大丈夫です」という人は仕事が長続きしないことがある。
- ・自己肯定感を高めることは大事だが、失敗した自分を認め、「失敗しました」と報告することが大事。その時に、「ちゃんと言えたね」と認める視点がキャリア教育に入るといい。

●片平委員

- ・令和5年度から神奈川県立津久井養護学校は名称変更して、神奈川県立津久井支援学校になる。
- ・センター的機能をさらに向上させ、地域の小中学校等をサポートしていく。

●安藤委員長

- ・多様な課題にどう対応するかというのは、柔軟性が必要であり、学校が一番苦手とすることかもしれない。
- ・投じた資源を、フレキシブルに使っていくということが求められている。
- ・通級指導教室は小学校と中学校は方法が違って当然。
- ・通級指導教室の先生たちが、通常学級に入り、児童生徒を支援できるような体制ができるといい。
- ・各学校において、少しずつ柔軟な対応が広がっていくことを期待している。

## 令和4年度相模原市支援教育ネットワーク協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安藤 正紀	学識経験者	玉川大学大学院 教育学研究科教授	出席
2	大里 朝彦	学識経験者	相模女子大学 子ども教育学科 特任教授	出席
3	富川 盛光	医師	相模原市医師会 理事おださが小児 アレルギー科院長	出席
4	千谷 史子	臨床心理士	こども広場 ワンダーステップ 所長	出席
5	片平 弘美	神奈川県立特別支援学校	神奈川県立 津久井養護学校学 校長	出席
6	中里 雅子	市立小学校長会	相模原市立 向陽小学校長	出席
7	谷口 浩之	市立中学校長会	相模原市立 鶴野森中学校長	出席

<オブザーバー>

8	宮原 幸雄	教育局 学校教育部 教育センター	所長	出席
9	加藤 政義	教育局 学校教育部 青少年相談センター	所長	出席
10	松本 祥勝	教育局 学校教育部 学校教育課	課長	出席